

1

(1・2・4・6・8・9 各完答)

1 A エ
B ウ
C イ
2 I 小
II 型
II だ
れ

3 ア
4 I エ
II ア
III イ
5 十
数
秒

6 I 電
II 池
7 イ
い
ら

8 ⑥ ロ
⑦ グ
タ
ル

9 エ
↓
ア
↓
ウ
↓
イ
10 ウ

11 a 機
械
b 特
筆
c 根
強
い

d 周
波
数

2

(2 II・3・6 各完答)

1 a 祝
う
b 残
り
c 転
校

2 I ぐ
じ
II i ウ
ii イ
3 A ウ
B ア
C エ

4 中
心
5 エ
6 I ク
II ラ
7 呼
ば
手
作

8 (記述題)
9 イ
10 エ
11 ー
ク
ラ
ス
に

2

8
お 誕 生 会 に 呼 ば れ て い な か
っ た 実 音 に 運 悪 く 会 っ て し
ま いた、こ っ そ り お 誕 生 会 に
行 っ て いた こと が 知 ら れ そ
う にな った から 。

(同意可)

配点	
1	11
2	1
各2点×	7=14点
2	8
その他	各4点×20=80点
100点	

1

1 (A)は「大名や豪商しかもてなかった時計」→「一家に一台の時代」→(A)→「一人一個の時代」というつながりなので「さらに」が入る。(B)には腕時計の話に転換するための「ところで」が入る。(C)には直前の段落で「自動巻き時計のよいところ」が述べられていたのに対してその後で「欠点」について述べているので「しかし」が入る。

2 線①をふくむ一文を読むと、「これ」という指示語があり、主語として「事件」にかかっている。つまり、「これは『事件』だったでしょう。」という文なのでこの「これ」という指示語が指している内容をたどればよい。直前の二文をまとめれば答えになる。

3 ②の直後の文が、②をふくむ文と対比になっている。「皆が時計をもっていない時代」は「時間にルーズでもやっていった」のだから、「だれでも時計をもてるようになった時代は「ルーズ」の反対で「時間に厳しくなる」ということである。

4 Iは直後の「自動巻き時計」と結びつける。IIは『自動巻き時計』が発明されたことがどのようなことであったということから考える。「画期的」の意味もわかっておく必要がある。IIIは残った選択肢では「規則的」しかあてはまらないだろう。「規則」は「規則的」だからこそ時間をはかることができるのである。後の「水晶振動子」の説明でも「正確なシユウハスウで振動する性質がある」とあったが、これが「規則的」という意味と同意である。

5 問1の(C)を考える時点で、(C)の後に「自動巻き時計」の欠点が説明されていることをおさえておこう。

6 線④の一行前に「電池交換のいらぬ自動巻き時計はネズヨイ人気があります」とある。これは自動巻き時計が喜ばれる理由と同じである。

7 「不適當なもの」を選ぶことに注意すること。線⑤のあとに「めったに時刻合わせをしなくてもすむようになりました」と書かれていた。これは裏を返せば「それほど頻繁には時刻合わせをする必要はある」ということで、イの「時刻合わせをする必要も生じない」という部分と矛盾する。

8 「アナログ」「デジタル」は外来語として、ぜひ知っておいてもらいたいことばである。アナログは「数値を、長さ、回転角などの連続的に変化する物理量で示すこと」で、まさにアナログ時計は回転する時計針で時刻を示すものである。デジタルは「連続的な量を、段階的に区切って数字で表すこと」で、デジタル時計は時刻をそのまま数字で表している時計である。

9 エの「このカット技術」に気づけばエがはじめと分かる。「精度を高める方法」を並べているアが次に来る。「欠点」の話になるウがその次に来て、その欠点に対して必要な技術の説明がされているイが最後になる。

10 アは「懐中時計」がおかしい。「振り子」を使っているのは小型化ができない。イは「どんな人でもつねに」がおかしい。本文中では「ふつうの活動をしている人なら」という条件があった。ウは十八行目の内容と一致する。エは線⑥の三行前の内容に合わない。

11 aは「機」も「械」も形を間違っていないかよく見ておこう。もちろん「機会」「器械」などの同音異義語にも注意すること。bやdはことば自体をしつかり知っておいてほしい。

2 1 a「祝」は「ころもへん」にしないこと。b「残」は形に注意しよう。c「転校」は易しい漢字なので確実に正解してほしい。

2 I (4-3)の一行目からの段落で「俺」が美音の性格を分析している。「最もよくわかる」九字となると、「相手から来てもらう」ではなく「ぐじぐじと考え込む」になるだろう。

II 最も決め手となるのは本文終わりから二行目の「孝治と美貴子さんからもまた『おじいちゃん、ちょっと黙って』と注意された」という部分である。これはもちろん美貴子さんから見えて「祖父」という意味ではなく「美貴子の娘」である。「実音」から見た「おじいちゃん」という立場に沿った呼び名である。また冒頭部分だけでも「美貴子さん」という少しあらたまった呼び方や、「美貴子さん」が「俺」に対して丁寧な物言いをしていることなどから、「美貴子さん」が「俺」の息子(孝治)の妻、つまり「義理の娘」であることはある程度推測できてほしいところであった。

3 (A)は実音をあまり刺激しないように「こっそりと」尋ねたと考える。直後に美貴さんも「やはり小声で教えてきた」というように同じような返し方をしている。(B)は直後の「くだろう」、(C)は直後の「くか」ということばにそれぞれ対応する「陳述の副詞」となっている。

4 リサちゃんのお誕生会に呼ばれなかった実音はリサちゃんとはあまり仲が良くないということである。線cの一行前に「中心人物の女の子とは気が合わない」と書かれているので、リサちゃんが「クラスの中心人物の女の子(の一人)」であると結びつけられる。

5 「思ったとおりをすげすけ」という意味の慣用句がエの「歯に衣着せぬ」である。他のものは「俺」の人物像に合わないが、意味を知らなかったものはぜひ調べておいてもらいたい。

6 「深刻そうにため息をついた」後に言ったことばがその内容に最も関係がある可能性が高い。「呼ばれなかった」人がもつとたくさんいたならばそれほど深刻とは言えないだろう。たった三人のうちの一人になってしまったのが深刻なのである。

7 何が「やりとり」されていたのかと考えれば容易である。

8 「よそよそしく、気まずそう」になる理由の説明として「実音がお誕生会に呼ばれていない」、「実音にばれないように」こっそりお誕生会に行っていた」という状況の説明が欲しいところである。

9 直後の実音のことばと結びつければよい。「俺」が口だししてきたということ自体よりも、その内容が気にさわったのである。

10 線⑧の二行後で、実音が「俺」の助言にしたがった様子が見られる。しかし、聞いたときには「不愉快そうに顔を背けて、『知らない』と呟いた」ことから、素直に聞いている態度とは言えないのでウではない。

11 「本人がいなくなつた」場面はどこか。また、「俺」が美貴子さんに対して「仲間はすれ」ということばを使って質問していることばがどこかを確認すればわかる。

以上